

1 第二次調査結果の要旨

(1) 第一次、第二次調査結果の比較

- ① 静岡分類、悩みや負担の 4 つの柱で分類すると、「診療の悩み」、「身体の苦痛」、「暮らしの負担」の割合が増加し、「心の苦悩」の割合が減少している。
- ② 「心の苦悩」の割合が減少しているのは、医療スタッフの説明、相談支援センターの整備、カウンセリングの実施などで、対話が進んだことが一つの要因と考えられる。
- ③ 「診療の悩み」の増加は、状況を把握した上で、治療法の多様化などに伴う自己選択を求められる場面が増加したことなどが要因と考えられる。
- ④ 「身体の苦痛」では、薬物療法の副作用・後遺症に伴う悩みや負担が顕著に増加している。
- ⑤ 「暮らしの負担」では、大きな差異は認められなかった。

(2) 2013 年時点におけるがん患者・体験者の悩みや負担の実態

- ① 悩みや負担に関する静岡分類の大分類 15 項目の中では、「不安などの心の問題」、「症状・副作用・後遺症」、「診断・治療」、「就労・経済的負担」、「家族・周囲の人との関係」が上位を占める。
- ② 「不安などの心の問題」においては再発への不安が大きい。
- ③ 「症状・副作用・後遺症」の項目では薬物療法の副作用に関する悩みや負担が顕著に増加している。特に、脱毛、末梢神経障害、食欲不振・味覚変化、外見の変化（皮膚・爪の症状）などが増えている。一方で、吐き気は減少している。
- ④ 「診断・治療」では、説明の後、抗がん剤の投与などの選択に悩む事例が多い。
- ⑤ 「就労」については後述するが、「経済的負担」では、医療費の負担が大きい。
- ⑥ 「家族・周囲の人との関係」の項目では、家族や子どもへの伝え方などが問題となっている。
- ⑦ 治療過程別に悩みや負担(気がかりなこと)を尋ねたところ、治療開始前は、「病状」が 7 割以上を占め、「副作用や後遺症」と「治療効果」が約 5 割、それに「医療費」、「外見の変化」が続いた。
- ⑧ 治療中の悩みや負担(困りごと)は、「治療関連の苦痛」が 5 割を占め、「外見の変化」、「治療関連の苦痛に対する対処法」、「医療費」、「配偶者の負担」が続いた。
- ⑨ 治療終了後の悩みや負担(困りごと)は、無回答がかなり増加しているが、「体力低下」、「副作用などの持続」、「今後の健康管理」、「日常生活への影響」、「体重の減少」などがあげられた。

(3) がん患者・体験者の就労について

- ① 離職者の割合は、第一次、第二次調査でほぼ同一であり、現時点では、これまでの就労対策の効果は見られていない。
- ② 仕事に関する悩みや負担の内容は多彩であり、「体力の低下」、「症状・副作用・後遺症」、「通院や治療のための勤務調整」、「仕事復帰の時期」、「経済的な問題」などが上位を占める。
- ③ がんになっても安心して仕事を続けるためには、「各種制度の改善」、「周囲の理解や職場の人の精神的な支え」、「相談窓口」などが望まれている。

(4) がん患者・体験者が求める情報や支援

- ① がん患者・体験者が求める情報や支援を 4 つの柱で分類すると、「診療の悩み」、「心の苦悩」に関することが多く、「暮らしの負担」、「身体の苦痛」がそれに次いだ。
- ② すべての要望について上位 5 項目を挙げると、「体験談・体験者との交流」、「診療に関する情報入手法」、「経済的負担への対処法」、「症状・副作用・後遺症への対処法」、「病院・医師の選択」などであった。
- ③ 治療開始前の医療スタッフの説明でわかりにくかったことは、「治療費用」、「副作用・合併症」、「治療法の選択」、「日常生活への影響」、「治療効果」などが上位を占めた。
- ④ 情報収集先は、「医療スタッフ」、「書籍・雑誌」、「インターネット」、「家族・友人・周囲の人」、「病院や企業作成の冊子やパンフレット」の順であった。